

# 出題の傾向と意図

## 1. この試験の意図

大学の学習は、高校までの勉強と大きく異なります。既存の知識の習得はもちろん大切ですが、それ以上にさまざまな学問の考え方や発想を学び、それを応用して新しい知識を生み出すことが重要になります。そのような知的営みには、論理的に系統だった思考や推理・判断・分析能力などが必要となります。また、東京経済大学のような社会科学系の学部の学びでは、社会科学の学習に必要なデータ分析能力や一定水準の数的処理能力も要求されます。このような能力は暗記に頼るタイプの入学試験では測りにくいものです。

そこで、私たちが実施をする基礎学習能力試験は、暗記力や知識量だけにとらわれず、上記のような資質や能力を潜在的に持っている受験生を見つけることを意図して実施しています。

## 2. 具体的な試験内容（試験時間60分）

原則として、次の4つのタイプの問題が出題されます。

- ① 日本語の長文読解力や論理的思考力を試す問題
- ② データや図表を正確に読み取ることや解析能力を試す問題
- ③ 与えられた問題文を基に推論する能力や分析力を試す問題
- ④ 数的処理能力を試す問題（中学校卒業もしくは高校1年生程度の数学力）

## 3. 試験のための準備

問題をよく見るとわかりますが、高校の学習レベルを超えた問題はありませんし、特定の知識のみが要求されることもありません。したがって、試験のための準備としては日頃から新聞やニュース、書物にたくさん触れることが有効でしょう。その際、文章の内容を正確に把握することはもちろんですが、内容を鵜呑みにすることなく批判的に読み、議論の論理展開を迫っていくように心がけるとよいでしょう。併せて基本的な漢字の読み書きや英語の構文、英単語についても確認しておくことよいでしょう。また、図や表で提示されるデータを的確に理解・分析することに慣れておくことも準備の一助となるでしょう。さらには、推論の力を試す問題や数的処理能力を試す問題では、基礎的な数学力が必要となりますから、中学校や高校1年生で習う範囲の数学を復習すること、速く正確に計算ができるような訓練をしておくこともこの試験のための準備として役立つでしょう。